

各 位

会 社 名 岩塚製菓株式会社
 代表者名 代表取締役社長 榎 春夫
 (JASDAQ コード番号: 2221)
 問合せ先 専務取締役経営管理本部長
 榎 大介
 (TEL: 0258 - 92 - 4111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2021年9月14日に公表した業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

連結業績予想数値の修正

2022年3月期第2四半期(2021年4月1日~2021年9月30日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	9,300	30	1,000	700	124円92銭
今回発表予想(B)	8,380	380	660	400	71円38銭
増減額(B-A)	920	410	340	300	
増減率(%)	9.9	-	34.0	42.9	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2021年3月期第2四半期)	10,885	76	2,345	1,553	277円29銭

2022年3月期通期(2021年4月1日~2022年3月31日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	19,700	200	1,600	1,000	178円46銭
今回発表予想(B)	17,500	300	1,100	700	124円92銭
増減額(B-A)	2,200	500	500	300	
増減率(%)	11.2	-	31.3	30.0	
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	22,167	181	2,938	2,005	357円92銭

2. 修正理由

米菓業界におきましては、昨年の巣ごもり特需の反動減が続いており、特に第1四半期の売上金額の縮小は顕著であり、第2四半期においても影響が残り回復が遅れております。

当社においては、販売面では、家飲み需要への対応や若年層の開拓に注力し、第2四半期での反転に努めたものの、新商品・企画品等の投入が秋以降にずれ込む見通しのなか、当第2四半期連結累計期間においては第1四半期の落込みをカバーするに至りませんでした。

一方、損益面においては、上記売上高の回復遅れが大きく響き、生産金額の減少や原材料費の上昇等から製造原価が高止まりし、競争激化のなか販促費等の販売コスト削減も限定的となるなか、減価償却費（前年同期間比+210百万円）や年間契約販促費の見込計上（+50百万円）等の固定費負担が重荷となって、第1四半期の営業損失を縮小するに至りませんでした。

現時点では、当第2四半期連結累計期間における営業利益は3.8億円、経常利益は6.6億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億円となる見通しにあります。

また、第3四半期以降については、トップシーズンであり最低限前年を上回る売上高の確保を目指し、新商品投入等の販売活動を強化してまいります。しかし、第2四半期までの収益が通期業績に及ぼす影響は否めず、現時点では、収益は回復する見通しにあるものの、通期売上高は175億円にとどまり、営業損益は固定費負担増を吸収して第2四半期までの損失を全面的にカバーするに至らず、3億円を見込んでおります。

以上から、上記のとおり業績予想を修正いたします。なお、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、営業利益の修正に合わせて上記のとおりいたします。

（参考）前年の売上高を収益認識会計基準等今期と同様に引き直して比較すると次のとおりです（なお、受託販売している輸入商品については、販売高から仕入高を控除したものを売上高として計上しております）。

前年第1四半期	：44億83百万円
当年度同上	：41億92百万円（差異 2億91百万円、前年同期間比93%）
前年第2四半期	：42億61百万円
当年度同上	：41億88百万円（差異 73百万円、前年同期間比98%）

上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上